

# 平成 31 年度経営方針

高根沢町長 加藤 公博

経営方針は、これから具体的な作業に入っていく平成 31 年度の計画執行、予算編成、そして組織運営にあたり留意すべきことを、以下のとおりまとめたものです。

## <計画執行>

- **平成 28 年度～32 年度までの前期計画「くらし高まる たかねざわ」（子育て支援、教育環境整備、住環境整備等）の仕上げに向けた取組みを進める重要な年と位置付け、平成 32 年度末の目標を見据えた計画執行を行います。**

県の毎月人口調査によると、平成 28 年度以降、本町は社会増減の部分で転入超過（※転出者よりも転入者の方が多い）傾向にあり、自然増減と合わせて全体的にみても、人口が下げ止まりの状況にあります。

この要因としては、町がこれまで取り組んできた子育て支援、教育環境整備、住環境整備をはじめとした諸施策が奏功し、特に子育て世代の方々に本町の魅力を訴えかけることに成功していると考えられます。

町民の皆様はもとより、町外から県外の方々からも「魅力を感じていただける」、「選んでいただける」まちづくりを進めていくこと、すなわち定住人口の増加により、地域を活性化していきます。

- **平成 32 年 3 月のプレオープンを目標とし、『元気あっぷむら』を拠点として、地の利を生かした新たな賑わい・人の流れ及びしごとを創出する取組みを、具体的に進めます。**

平成 27 年度から平成 29 年度にかけ、町の表玄関、交通結節点という『JR 宝積寺駅』の地の利を生かし、賑わい創出、移住・定住及び創業支援の取組みを推進し、目に見える交流人口の増加や、町内外からの反響を得ました。

平成 30 年度はこの流れを町全体に波及させ、町民の皆様はもとより、町外から県外の方々からもさらに「魅力を感じていただける」、「選んでいただける」よう、『元気あっぷむら』の地の利を生かし、道の駅の登録、施設全体のリニューアル及び体験・滞在型施設整備に向けた準備を進めている状況にあります。

平成 31 年度は当該取組を最優先事項とし、『元気あっぷむら』を拠点として、温泉があり、美味しいものが食べられ、買い物ができ、遊ぶ、体験する、滞在する、あるいは働くこともできる、新たな賑わい・人の流れ及びしごとを創出する取組みを、具体的に進めていきます。

## <予算編成>

### ■ 未来への投資＝予算額の増とは捉えず、経済的合理性を検証した上での編成を基本とします。

財政状況は依然として、計画を執行していく観点からすれば、とても厳しいと言わざるを得ません。

今回とりまとめた財政計画（平成 30 年度改訂版）によると、地域経営計画 2016 の重点取組やチャレンジ 40 を今後執行していくためには、町債で対応する、公共施設の維持修繕を一部先送りするだけでなく、財政調整基金（町の貯金）を半分程度まで取り崩さなければ、財源を確保できないという結果となりました。

これは、「町の貯金がなくなってしまう。＝不測の事態があった時に、対応ができなくなってしまう。」という、危機的な財政状況であることを意味しています。

「未来への投資」と「経済合理性の追求」のバランスをとり、十分に精査した上で予算編成を行っていきます。

## <組織運営>

### ■ 弾力的な組織運営を行います。

前記<計画執行>及び<予算編成>の状況に応じ、「ヒト・モノ・カネ」はセットであるとの認識のもと、施策の優先順位や緊急性に応じ機を逃さず対応していくため、適宜柔軟な組織運営を行っていきます。

平成 30 年度途中においても現在、『元気あっぷむら』を拠点として、地の利を生かした新たな賑わい・人の流れ及びしごとを創出する取組みを迅速に推進していくため、担当課を新設するための関係条例の一部改正議案を 9 月定例会に上程し、10 月 1 日から適用するよう事務を進めている段階です。

平成 31 年度においても、計画推進・予算執行の状況をみながら、執行体制を常に検証し、必要に応じて弾力的に組織運営を行います。

### ■ 「組織で仕事をする」風土づくりを進めるため、特に管理職が、その旗振り役を担います。

バランスのとれた町政運営を行っていくためには、職員一人ひとりのスキルアップはもとより、組織力の強化が不可欠です。

OJT や内部研修により知識や技能を承継し、個人が自立しつつ、その上で職位に関係のない闊達な議論が行われ、合意形成していくことが「組織で仕事をする」、すなわち組織力の強化につながると考えます。

また、そういったプロセスを積み重ねることが、計画執行、予算編成にあっても、「機を逃さずに事業（予算）を計上する」、あるいは「課題を先送りすることなく議論の俎上に乗せる」ことにつながると考えます。

その旗振り役である管理職が、率先して高い意識を持ち、強いリーダーシップを発揮することで、職員一人ひとりが組織目標を共有し、同じ方向を向いて仕事ができるよう、十分にサポートをします。